

定期作況報告

平成23年8月
(8月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

7月下旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並で、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より少なかった（平年比3%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比136%）。

8月上旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温は平年より高かった。降水量は平年並であった（平年比82%）。日照時間は平年より多かった（平年比167%）。

8月中旬：最高気温は平年より高く、最低気温および平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比225%）。日照時間は平年並であった（平年比114%）。

以上のことから、この1か月間（7月下旬～8月中旬）は平年と比較して、気温がやや高く、降水量は平年並で、日照時間はやや多かった。

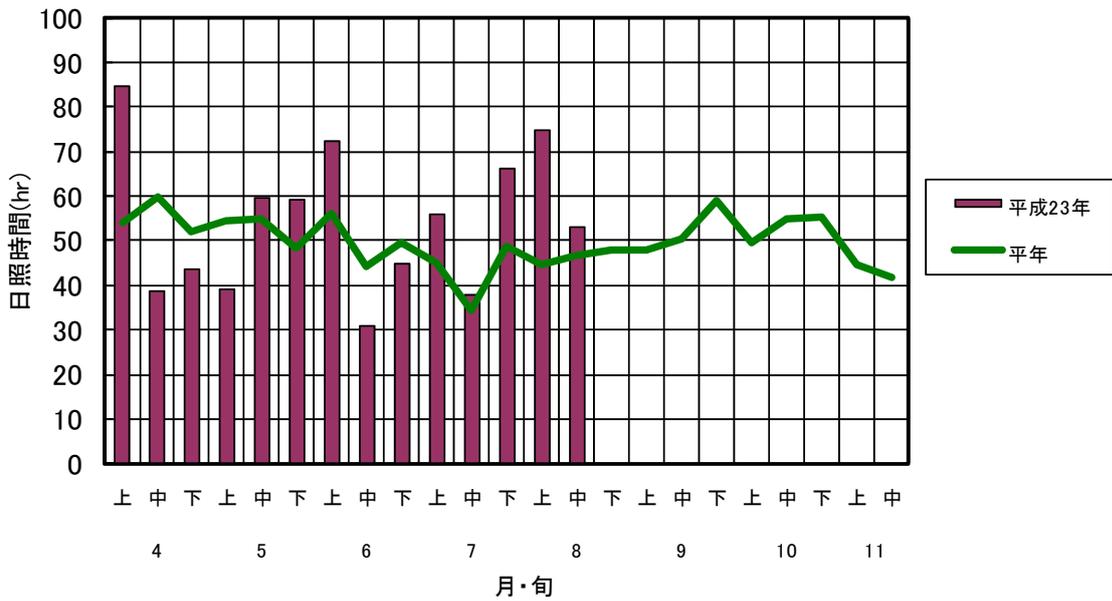
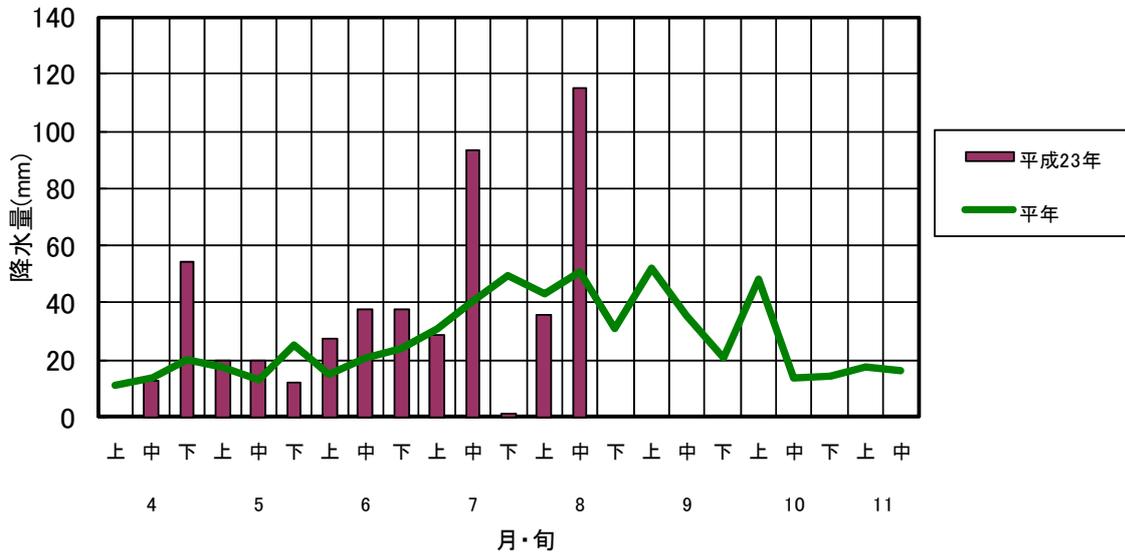
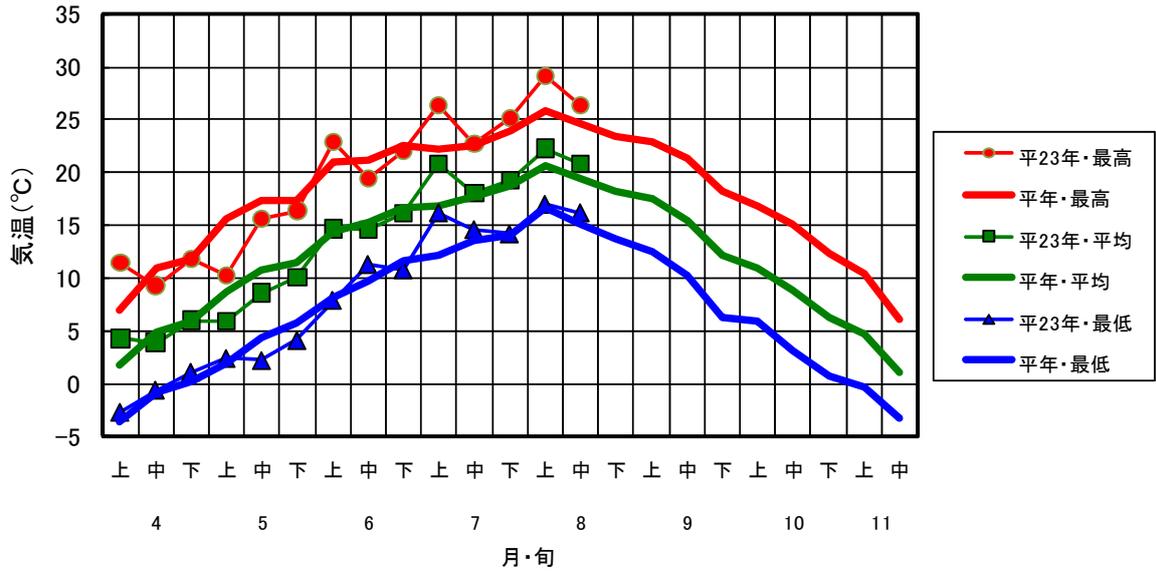
気 象 表

| 項目 月・旬 | 平均気温(°C) | | | 最高気温(°C) | | | 最低気温(°C) | | |
|-----------|----------|------|-----|----------|------|-----|----------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 7月下旬 | 19.3 | 18.7 | 0.6 | 25.2 | 24.0 | 1.2 | 14.2 | 14.1 | 0.1 |
| 8月上旬 | 22.3 | 20.7 | 1.6 | 29.1 | 25.9 | 3.2 | 17.0 | 16.6 | 0.4 |
| 8月中旬 | 20.8 | 19.5 | 1.3 | 26.4 | 24.6 | 1.8 | 16.2 | 15.1 | 1.1 |

| 項目 月・旬 | 降水量(mm) | | | 日照時間(hr) | | |
|-----------|---------|------|--------|----------|------|------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 7月下旬 | 1.5 | 49.3 | △ 47.8 | 66.3 | 48.6 | 17.7 |
| 8月上旬 | 35.5 | 43.2 | △ 7.7 | 74.7 | 44.8 | 29.9 |
| 8月中旬 | 115.0 | 51.0 | 64.0 | 52.9 | 46.6 | 6.3 |

注1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：平年並

事由：「ホクシン」の成熟期は平年並の7月24日であった。登熟期間は平年より1日短く、概ね平年並であったが、7月上旬に極めて高温、7月中旬に極めて多雨の期間があり、登熟環境としては好ましい条件ではなかった。このため子実重は平年比107%と多かったが、リットル重ならびに千粒重は平年を下回り、整粒歩合や品質面での低下が懸念される。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

| 調査項目 | ホクシン | | | きたほなみ(参考) | | |
|-------------|-------|-------|--------|-----------|-------|--------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 成熟期 (月. 日) | 7. 24 | 7. 24 | 0 | 7. 27 | 7. 28 | △1 |
| 子実重(kg/10a) | 600 | 560 | 40 | 696 | 696 | 0 |
| 同上平年比 (%) | 107 | 100 | | 100 | 100 | |
| リットル重 (g) | 779 | 792 | △ 13 | 780 | 804 | △ 24 |
| 千粒重 (g) | 35. 3 | 36. 2 | △ 0. 9 | 33. 5 | 36. 6 | △ 3. 1 |

注) 「ホクシン」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。

「きたほなみ(参考)」の平年値は前6か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：出穂期は平年に比べ3日遅れであったが、7月以降の気温が高温で推移したため成熟期は平年並となった。穂長は平年並、穂数は平年よりやや多く(前報)、*Microdochium nivale*による葉枯れ症状が散見されたが、生育は順調に経過した。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

| 調査項目 | 春よ恋 | | | ハルユタカ | | |
|------------|------|------|----|-------|------|----|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 成熟期 (月. 日) | 8. 7 | 8. 7 | 0 | 8. 8 | 8. 8 | 0 |

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、22(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用) 作 況 : やや良

事 由 : 開花期は平年と同日で、抽糸期は平年より2日早かった。8月上中旬の気温が平年より高く推移したため、葉数は平年並であるが草丈は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

| 調査項目 | チベリウス | | |
|----------------|-------|-------|------|
| | 本年 | 平年 | 比較 |
| 開花期 (月. 日) | 8.3 | 8.3 | 0 |
| 抽糸期 (月. 日) | 8.1 | 8.3 | △2 |
| 草丈(cm) (8月20日) | 332.6 | 297.4 | 35.2 |
| 葉数(枚) (8月20日) | 14.8 | 14.9 | △0.1 |

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆 作 況 : 良

事 由 : 主茎長、主茎節数及び分枝数は平年並である。7月下旬～8月中旬の平均気温がやや高かったため、開花、着莢は順調に推移し、着莢数は平年と比べ30%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

| 調査項目 | ユキホマレ | | |
|------------------|-------|------|-------|
| | 本年 | 平年 | 比較 |
| 主茎長(cm) (8月20日) | 62.5 | 62.0 | 0.5 |
| 主茎節数 (8月20日) | 10.9 | 11.0 | △ 0.1 |
| 分枝数(本/株) (8月20日) | 5.8 | 5.3 | 0.5 |
| 着莢数(莢/株) (8月20日) | 89.4 | 68.8 | 20.6 |

注1) 平年値は前7か年中、17年(最豊)、平成21年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

5) 小豆 作況：良

事由：開花始は「エリモシヨウズ」が平年並、「サホロシヨウズ」は平年より2日遅かった。「エリモシヨウズ」は主茎長、主茎節数及び分枝数ともに平年並であったが、「サホロシヨウズ」は主茎長が平年を大きく上回り、8月上旬以降、倒伏が発生した。7月下旬～8月中旬の平均気温がやや高かったため、開花、着莢は両品種ともに順調に推移し、着莢数は平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

| 調査項目 | サホロシヨウズ | | | エリモシヨウズ | | |
|------------------|---------|------|------|---------|------|------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 開花始 (月.日) | 7.24 | 7.22 | 2 | 7.24 | 7.24 | 0 |
| 主茎長(cm) (8月20日) | 82.4 | 64.6 | 17.8 | 63.0 | 65.6 | △2.6 |
| 主茎節数 (8月20日) | 14.5 | 12.3 | 2.2 | 15.1 | 13.5 | 1.6 |
| 分枝数(本/株) (8月20日) | 5.2 | 5.0 | 0.2 | 4.7 | 4.7 | 0.0 |
| 着莢数(莢/株) (8月20日) | 72.4 | 58.6 | 13.8 | 74.3 | 50.1 | 24.2 |

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

6) 菜豆 作況：良

事由：草丈は平年より高く、主茎節数及び分枝数は平年並である。開花期以降、平均気温が高めに経過したため、開花、着莢は順調に推移し、着莢数は平年と比べ24%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

| 調査項目 | 大正金時 | | |
|------------------|------|------|------|
| | 本年 | 平年 | 比較 |
| 草丈(cm) (8月20日) | 50.1 | 41.3 | 8.8 |
| 主茎節数 (8月20日) | 5.4 | 5.2 | 0.2 |
| 分枝数(本/株) (8月20日) | 4.7 | 4.9 | △0.2 |
| 着莢数(莢/株) (8月20日) | 27.4 | 22.0 | 5.4 |

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、21年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 着莢数は、莢の長さが4cm以上のものを示す。

7) ばれいしょ 作 況 : やや良

事 由 : 7月下旬以降も土壌は湿潤でやや高温に推移したことから、両品種とも茎長は平年を上回り、「コナフブキ」は倒伏している。土壌水分が十分であったことから塊茎の肥大が順調に進み、上いも重は両品種とも平年を上回り、日照時間が多かったためでん粉の蓄積が進み、でん粉価も平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

| 調査項目 | 男爵薯 | | | コナフブキ | | |
|----------------------|------|------|-----|-------|------|-------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 茎長(cm) (8月20日) | 61 | 52 | 9 | 97 | 88 | 9 |
| 茎数(本/株) (8月20日) | 3.4 | 3.4 | 0.0 | 3.0 | 3.1 | △ 0.1 |
| 上いも重(kg/10a) (8月20日) | 4719 | 4215 | 504 | 3454 | 3243 | 211 |
| でん粉価(%) (8月20日) | 15.4 | 14.9 | 0.5 | 20.4 | 19.9 | 0.5 |

8) てんさい 作 況 : やや不良

事 由 : 7月下旬の気温が平年よりやや高く、降水量が平年より少なかったことから、地下部の肥大は回復し、移植栽培では根重および根周は概ね平年並で、直播栽培では平年をやや上回っている。しかし、移植栽培では、8月上旬の高温時に茎葉のしおれが生じ、生葉数および茎葉重は平年を下回っている。直播栽培では、8月中旬の高温・多雨により徒長気味の地上部生育となっており、草丈および茎葉重は平年を上回っているが、今後の褐斑病の蔓延が懸念される。

以上のことから目下の作況は「やや不良」である。

| 調査項目 | 移植 | | | | | | 直播 | | |
|-------------------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
| | モノホマレ | | | アーベント | | | モノホマレ | | |
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 草丈(cm) (8月20日) | 63.8 | 63.8 | 0.0 | 58.1 | 59.6 | △1.5 | 74.6 | 63.1 | 11.5 |
| 生葉数(枚) (8月20日) | 25.0 | 27.0 | △2.0 | 23.7 | 27.6 | △3.9 | 26.3 | 26.1 | 0.2 |
| 茎葉重(g/個体) (8月20日) | 817 | 939 | △122 | 823 | 995 | △172 | 1,157 | 905 | 252 |
| 根重(g/個体) (8月20日) | 698 | 661 | 37 | 734 | 750 | △16 | 529 | 475 | 54 |
| 根周(cm) (8月20日) | 30.5 | 29.9 | 0.6 | 32.1 | 32.4 | △0.3 | 28.0 | 26.6 | 1.4 |

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー) 作況:良

事由:2番草は平年より2日遅い8月12日に収穫を行った。7月下旬の降水量が少なく一時的に生育の停滞が認められたものの、草丈と節間伸長程度はいずれも平年並であった。生草収量は平年より少なかったものの、乾物率が高く、乾物収量は平年比105%とやや多く、1番草との合計乾物収量は平年比111%と多かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

| 調査項目 | | ノサップ | | |
|--------------|-------|------|------|------|
| | | 本年 | 平年 | 比較 |
| 刈取日(月.日) | 2番草 | 8.12 | 8.10 | 2 |
| 節間伸長程度 | 2番草 | 3.3 | 3.3 | 0.0 |
| 病害罹病程度 | 2番草 | 3.5 | 3.3 | 0.2 |
| 草丈(cm) | 2番草 | 65 | 61 | 4 |
| 生草収量(kg/10a) | 2番草 | 706 | 848 | △142 |
| 乾物率(%) | 2番草 | 27.3 | 22.0 | 5.3 |
| 乾物収量(kg/10a) | 2番草 | 193 | 183 | 10 |
| 同上平年比(%) | 2番草 | 105 | 100 | |
| 乾物収量(kg/10a) | 1+2番草 | 888 | 798 | 90 |
| 同上平年比(%) | 1+2番草 | 111 | 100 | |

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

節間伸長程度は、1:無~9:極多。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ 作況:平年並

事由:7月下旬~8月中旬の気温は平年に比べてやや高く推移し、7月下旬の降水量は平年より少なく、試験ほ場全体に地上部の葉先枯れ症状が認められた。早生種「改良オホーツク1号」の倒伏期は平年より4日早い7月31日で、一球重は平年を上回った。晩生種「スーパー北もみじ」の倒伏期は平年より10日早い8月5日で、一球重は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

| 調査項目 | 改良オホーツク1号 | | | スーパー北もみじ | | |
|---------------|-----------|-------|------|----------|-------|-------|
| | 本年 | 平年 | 比較 | 本年 | 平年 | 比較 |
| 倒伏期(月.日) | 7.31 | 8.4 | △4 | 8.5 | 8.15 | △10 |
| 一球重(g)(8月20日) | 279.3 | 256.0 | 23.3 | 211.9 | 248.7 | △36.8 |

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。